

令和5年度 第3回 村櫛小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月9日（金） 13時20分から15時30分まで
- 2 開催場所 村櫛小学校 3階 会議室
- 3 出席委員 徳増 幸雄、徳増 久子、徳増 善幸、遠山 通夫、藤田 善人、中村 陽介、小松 奈七
- 4 欠席委員 柴田 宜克
- 5 オブザーバー 藤田 伸幸（村櫛幼稚園園長）
- 6 学 校 今田 徹（校長）、宮本 直子（教頭）、鈴木 亨（教務主任）、宮崎 友貴（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 宮崎 友貴

10 議長の選出

議長は前回会議（第2回）の経緯より、徳増善幸委員が務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）今年度の学校関係者評価について
- （2）来年度の学校運営の基本方針について
- （3）今年度の学校運営協議会についての自己評価
- （4）学校支援コーディネーターの人選について

12 会議記録

司会の宮本教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）今年度の学校関係者評価について

鈴木教務主任から、別紙資料に基づき、今年度の学校関係者評価について説明があった。委員から、以下の発言があった。

- ・ 読書時間が少なくなっていることについて、教育と読書の関係を考えたい。タブレットは簡単に調べられるため「本を読むことが楽しい」ところまで行きつかないのではないか（徳増善幸委員）

→調べ学習にタブレットを利用しているが、情報が多すぎるため、子どもは本の方が扱いやすい。しっかり調べたいなら本を使わせたいと考えている。また、朝の日課の中で読書の時間を増やす方向で検討中である。よい本を探すことやよい本を紹介し合う取り組みができるとよいと考えている（教務主任）

- ・読み語りボランティアは何名活動しているか（徳増善幸委員）
  - 今年度12名のボランティアの方が活動している。委員の小松さんもその一人である。半数はすでに子どもが卒業し在学していなくても続けてくれており感謝している（教務主任）
  - とても良いことだと思う（徳増善幸委員）
  
- ・いじめについて特に問題はないだろうか（徳増善幸委員）
  - やられた子がイヤだと言ったらそれはいじめだと思うが、正直そのようなことは毎日ある。学校としてはそれが集団で行われているか、継続しているかということが問題であると考え、日々保護者や地域から情報を提供してもらい気を配っている。そういう点では現在はないと言える（校長）
  - ずっと同じメンバーで6年間を過ごし、固定化された人間関係の中でいじめが生じる可能性があるため、それらを未然に防止する取り組みの工夫を試みている（教務主任）

## （2）来年度の学校運営の基本方針について

今田校長から、別紙資料に基づき、来年度の学校運営の基本方針について、グランドデザインを少し変えて、固定化した人間関係の中で相手を傷つける言葉を使うこともあり、「優しい学校」を目指すことで「優しい」言葉づかいを広めていくことに力を入れていくと説明があった。委員からは特に反対の発言はなく承認された。

## （3）今年度の学校運営協議会についての自己評価

議長より、今年度の学校運営協議会の自己評価を行いたいと発言があった。各委員が3つの評価項目について考えをまとめ、それを基に熟議を行った。各委員からの発言は、以下の通りである。

- ・学校からの丁寧な説明によって委員間で共通理解が図られ、地域との日常のやり取りで熟議に資することができていた。タブレットは調べ学習、本は自分を高める物として使い分けるとよい（徳増幸雄委員）
- ・村楯小の歴史を踏まえて経営構想を考えてくれていることが嬉しい。「優しい」とはいろいろな人の考え方を認め、許容できる範囲が広がることだと思う（徳増久子委員）
- ・子どもたちが地域に出ていくことを応援したい。例えば親と子が一緒に自治会の防災訓練に参加するなど、地域の人とつながることを増やせるといい（徳増善幸委員）
- ・小規模校ならではの学校と地域が一体になった取り組みによって「皆さんのふるさとはこちらだ」と感じ、歴史を伝えていってほしい（遠山通夫委員）
- ・CSを地域に根差した特色のあるものにしていけたらと思うが、熟議には時間の限りがあった。学校だより「にじ」は学校の様子がよくわかってよい（藤田善人委員）
- ・今年度はグランドデザインに基づき活動していく中でCSのあり方を探っていく1年だった（中村陽介委員）
- ・レインボープランについて知ることができよかった。この場で意見交換をして得た情報は、学校と地域のつながりとして子どもに還元されていくのだと思った（小松奈七委員）

今年度は時間的に十分な熟議を行うことはできなかったが、学校と地域が日常的に連絡を取り、連携したことで、熟議に相当する成果を得られたと感じた委員が多かった。

#### (4) 学校支援コーディネーターの人選について

会長から、別紙資料に基づき、学校支援コーディネーターの人選について説明があった。

- ・ 特定の1人を選ぶのではなく地域で受け止め、自治会の副会長3名から学校支援コーディネーターの職を担う1名を選出する。

上記案について委員からは特に発言はなく、来年度からこの形でスタートすることが承認された。

#### その他報告事項等

宮本教頭から、夢育やらまいかCS加算分についての報告があった。

続いて、来年度の学校運営協議会の開催について、第1回の開催日は未定のため、決定次第各委員に通知すると説明があった。